

- 1) Ono, J, Ohshima, KI, Mizuta, G, Fukainachi, Y, Wakatsuchi, M, 2008 : Diurnal coastal-trapped waves on the eastern shelf of Sakhalin in the Sea of Okhotsk and their modification by sea ice"地球環境と生態系—陸域生態系の科学 (武田博清、占部城太郎編) 225-237, pp282 共立出版
- 2) 中村知裕、三寺史夫, 2008 : 環オホーツク領域気候モデル 天気, 55, 555-560
- 3) 内本圭亮, 三寺史夫, 江淵直人, 水田元太, 2008 : 千島海盆東部の海面高度の年周期変動, 海と空, 第 84 巻第 2 号
- 4) 三寺史夫、松田淳二、中村知裕、内本圭亮、中野渡拓也、江淵直人, 2008 : オホーツク海熱塩循環の数値実験, 海環境と生物および沿岸環境修復技術に関するシンポジウム発表論文集, 113-116
- 5) 松山洋, 谷本陽一 共著, 2008 : 「実践! 気候データ解析」, 第二版, 古今書院, 117pp.
- 6) 谷本陽一, 謝尚平, 甲斐浩平, 時長宏樹, 岡島秀樹, 村山利幸, 野中正見, 中村尚 2008 : 夏季黒潮続流上における海洋性大気境界層の変質過程, 月刊海洋, 49 (号外), 42-48.
- 7) 中村尚, 谷本陽一, 根田昌典, 2008 : 総論: 中緯度大気海洋相互作用における海洋前線帯の重要性, 月刊海洋, 49 (号外), 5-11.
- 8) 小橋史明, 谷本陽一, 岩坂直人, 村山利幸, 野中正見, 時長宏樹, 根田昌典, 2008 : 冬季黒潮続流域で観測された大気境界層の変動, 月刊海洋, 49 (号外), 49-56.
- 9) 飯島裕司, 青木茂, 谷本陽一, 2008 : しらせ海上気象観測データから見た 110°E 線の亜南極フロント上における大気の応答, 月刊海洋, 49 (号外), 66-72.
- 10) 中村知裕, 2008 : "千島列島付近での潮汐・混合のモデル研究 —なぜ大きな混合?" 月刊海洋号外, 50, 18-27.
- 11) 中村知裕, 2008 : 潮汐過程がオホーツク海・北太平洋間の海水交換に果たす役割, 海の研究, 17(2), 133-146.
- 12) 藤原正智, 西岡純, 堀口健夫, 間山貴文, 馬方, 松山聖央, 2008 : 座談会, 北大は地球温暖化に向き合う, リテラポプリ (北大広報誌), 34, 6-15
- 13) 野村大樹・豊田威信・的場澄人・西岡純・白澤邦男, 2008 : オホーツク海の海氷中栄養塩濃度について—砕氷船「そうや」による観測から—, 第 7 回海環境と生物及び沿岸環境修復技術に関するシンポジウム発表論文集、2008.7.16-17.札幌、93-98
- 14) 大崎満, 帰山雅秀, 中野渡拓也, 山中康裕, 吉田文和, 2008 : 北海道から見る地球温暖化, 岩波ブックレット No 724, 岩波書店, 72 ページ
- 15) 増田良帆, 山中康裕, 笹井義一, 藤井賢彦, 2008 : 海洋大循環モデルによる年間 5000 万吨注入ケースのシミュレーション, 海洋理工学会誌, 14(1), 81-87
- 16) 山中康裕, 2008 : 海洋酸性化: 二酸化炭素が海洋に吸収される壮大な中和反応, 雑誌「パリティ」, 23(1), 60-62
- 17) 山崎孝治, 2008 : 北極圏からみた気候変動, 地学雑誌, 117, No.6, 1051-1062.
- 18) 山崎孝治, 2008 : 地球温暖化のメカニズムと予測, 北海道土壌肥料研究通信, 54, 1, 1-9.

- 19)青木茂, 2008 : 「激変する南大洋」, 極地研 NEWS、No.186、2-3
- 20)青木茂, 2008 : 南極を学び、地球を知る－北海道大学 国際南極大学カリキュラムの取り組み－, 大阪国際サイエンスクラブ会報、No.217、4-6
- 21)青木茂, 2008 : 南極陸棚斜面横断東経 115 度ラインにおける酸素安定同位体比分布,九州大学応用力学研究所所報, 135 号, 89-93 頁
- 22)山之口勤・土井浩一郎・澁谷和雄・青木茂, 2008 : 干渉 SAR 処理を用いた南極接地線 (grounding line)の精密決定,九州大学応用力学研究所所報, 135 号, 95-99 頁
- 23)大島慶一郎・小野純・清水大輔, 2008 : オホーツク海における漂流物の粒子追跡モデル実験,沿岸海洋研究, 45, 115-124
- 24)大島慶一郎・小野純・小野数也・勝又勝郎, 2008 : オホーツク海の潮流の観測,月刊海洋, 50, 28-33
- 25)大島 慶一郎, 2008: 温暖化で変わるオホーツク海 –弱まる北太平洋へのポンプの働き–, 北海道大学広報誌 リテラポプリ, 34 号, 34-35
- 26)大島 慶一郎・中野渡 拓也・若土 正暁, 2008 : 温暖化によるオホーツク海及び 北太平洋のオーバーターン弱化,月刊地球, 30-3, 127-133
- 27)渡辺力,2008 : 植生－大気相互作用の観測とモデリングにおける問題, 水文・水資源学会セミナーテキスト, 6, 29-40
- 28)宇都木玄、飛田博順、北尾光俊、上村章、北岡哲、阪田匡司、飯田滋生、渡辺力, 2008 : 札幌市郊外の落葉広葉樹林における地上部非同化部呼吸量の推定, 日本森林学会北海道支部大会論文集, 56, 47-49
- 29)渡辺力, 2008 : 植物群落内外の流れの LES, 気象研究ノート, 219, 37-54
- 30)藤吉康志, 2008 : 雨滴の最大粒径の気候学, 日本大気電気学会誌、Vol2 (No.1)、8-18
- 31)藤吉康志、山下和也、藤原忠誠, 2008 : LES の気象への応用と検証, 日本気象学会気象研究ノート 219 号